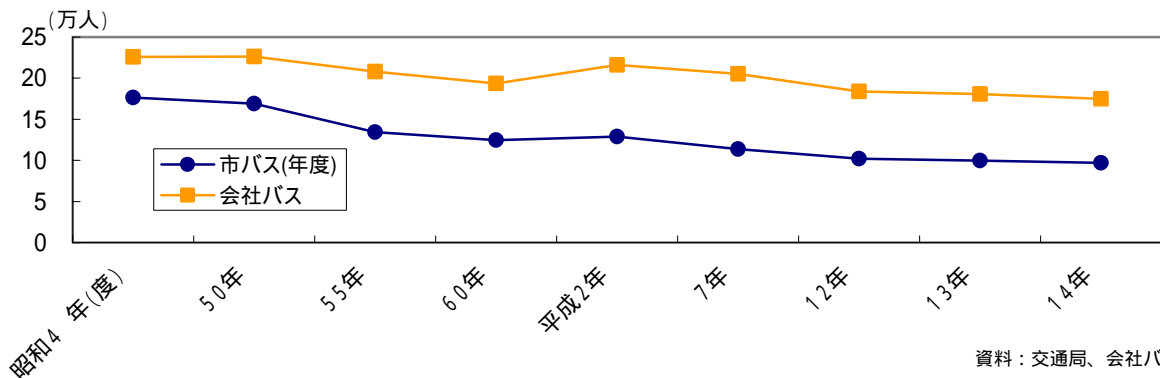


バスは乗車人員の減少が続く

市バスの平成14年度の1日平均乗車人員は、96,971人で前年度より2.7%減少しています。会社バスの14年の1日平均乗車人員は、174,701人で前年より、3.2%減少しています。また、昭和45年(度)以降の推移をみると、ほぼ減少傾向を示しており、平成14年(度)は昭和45年(度)に比較すると、市バスは45.0%減、会社バスは22.6%減となっています。

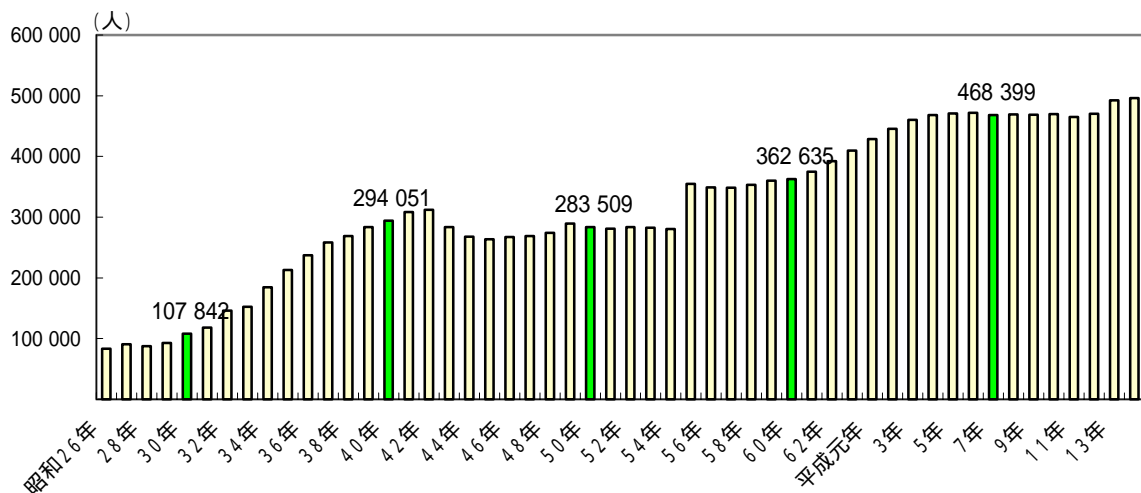
バスの1日平均乗車人員の推移(昭和45年～平成14年)



主要駅の1日平均乗車人員合計は増加傾向が続く

各区の主要7駅(JR川崎駅・鹿島田駅・東急武蔵小杉駅・溝の口駅・宮前平駅・小田急登戸駅・新百合ヶ丘駅)の1日平均乗車人員合計をみると、平成14年(度)は495,908人で12年(度)以降増加傾向が続いています。乗車人員の推移を10年毎の調査でみると、昭和30年(度)は107,842人、40年(度)は294,051人(対前回は172.7%増)、50年(度)は283,509人(同3.6%減)、60年(度)は362,635人(同27.9%増)、平成7年(度)は468,399人(同29.2%増)となっています。なお、宮前平駅は昭和41年、新百合ヶ丘駅は49年からの推移となっています。

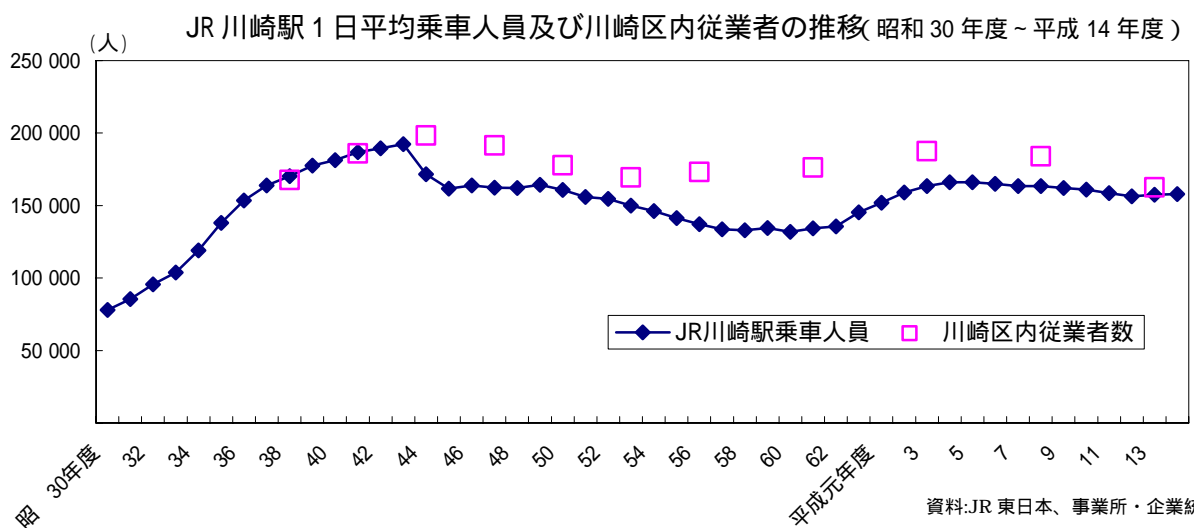
主要駅の1日平均乗車人員の推移(昭和26年～平成14年)



JR川崎駅の1日平均乗車人員は15万8千人

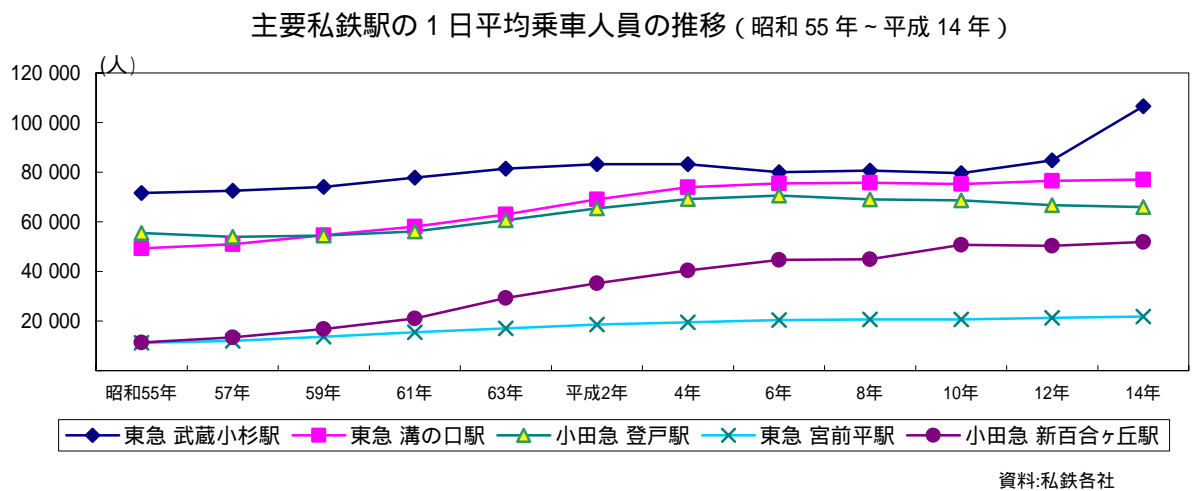
JR川崎駅の1日平均乗車人員の推移を昭和30年度以降でみると、43年度までは増加傾向、その後、昭和60年度までは概ね減少で推移しました。61年度から増加に転じましたが、平成5年度から12年度まで再び減少傾向となっています。最近の平成13年度、14年度はわずかに増加となっています。なお、平成14年度は157,877人で、最も多い昭和43年度(192,349人)の17.9%減となっています。

また、川崎区内従業者数の推移をみると、概ね乗車人員の推移と類似しています。



東急武蔵小杉駅の1日平均乗車人員が平成13年に10万人を超える

平成14年の私鉄駅の1日平均乗車人員をみると、東急東横線の武蔵小杉駅が106,565人で、次いで東急田園都市線の溝の口駅が77,032人、小田急小田原線の登戸駅が65,929人、小田急小田原線の新百合ヶ丘駅が51,872人、東急田園都市線の宮前平駅が21,807人となっています。



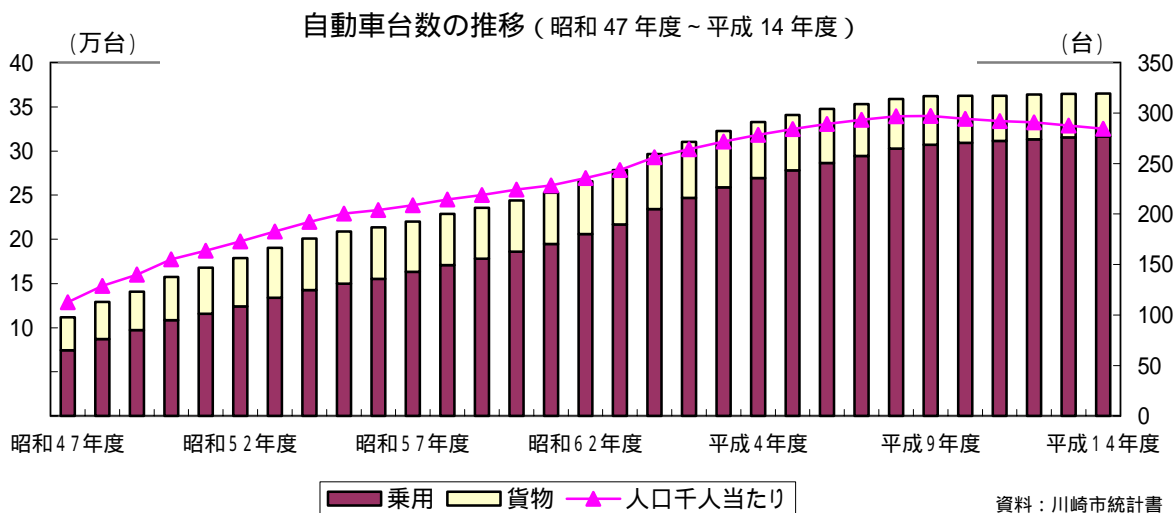
川崎の交通

自動車台数は30年で約3.3倍

平成14年度末の自動車の登録台数をみると、364,610台で、30年前の昭和47年度(111,801台)の約3.3倍となっています。また、昭和47年度以降の推移をみると、一貫して増加しています。

昭和47年度から平成14年度までの30年間で、貨物自動車が37,501台から48,001台と約1.3倍の増加であったのに対して、乗用自動車は74,300台から316,609台で、約4.3倍と大きく増加しています。

また、自動車台数を人口千人当たりでみると、平成9年度が297台でピークとなり、それ以降は減少傾向にあります。平成14年度には284台で、昭和47年度(113台)の約2.5倍となっています。



自動車台数は人口規模に比べ少ない

13大都市の自動車台数を人口千人当たりで比較すると、名古屋市の473台が最も多く、次いで仙台市の435台となっており、川崎市は284台で11番目となっています。

